

総合計画 体系	事務事業名 雲南市観光協会補助金		所属部	産業観光部	所属課	観光振興課
	政策名 〈V〉挑戦し活力を産みだすまち〈産業〉		所属G	観光振興グループ	課長名	高橋 司
	施策名 〈36〉観光の振興		担当者名	桑原 真由美	電話番号	0854-40-1054
	目的 対象 A)市外の人 B)市民 意図 A)市内で観光を楽しんでもらい、消費してもらう。 B)観光情報を発信する。				(内線)	2432
	基本事業名 〈104〉観光情報の発信		予算科目	0:1 3 5 0:1 0:5 1 5 7:3	大事業名 中事業名	観光振興総務管理事業 雲南市観光協会補助金

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)		② 意図(対象がどのような状態になるのか)	
観光客		雲南市に観光に訪れてもらう	
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)			
事業期間 □ 単年度のみ ■ 単年度繰返 (H18 年度～) □ 期間限定複数年度 (年度～ 年度)		合併前まで各町村で組織していた観光協会を統合し、平成18年7月に「雲南市観光協会(本会)」を設立。官民協力協働による観光振興事業を推進。各町村の観光協会は支部組織とし、既存事業を実施。平成27年4月には、一般社団法人として組織化し、これに併せて各支部組織については解散した。本会は、観光振興を推進する中心的な役割を担う団体であり、協会会員や観光関係団体などとの連絡・調整を図りながら、観光地域づくりや観光情報の発信、誘客への取り組み等の事業を実施している。	
④ 主な活動		⑤ これまでの改革・改善経緯	
R5年度実績(R5年度に行った主な活動)		(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	
一般社団法人雲南市観光協会への補助金交付及び円滑な運営の支援。		観光施策をより一体的に行うために法人化するとともに、木次駅内へ事務所を移転、令和2年3月から休日の職員配置を始めた。令和4年1月から令和6年3月までJR西日本の派遣職員を受け入れ体制強化を図り、令和4年4月からは木次駅内事務所を観光案内所とし、事務所機能を移転した。広域観光推進やマーケティング強化のため令和6年4月から市職員を派遣。	

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	R6年度 (計画)
ア 観光入込客数	千人	934	1,000	1,073	1,160
イ 観光ガイド利用者数	人	864	1,741	1,331	1,750
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R5年度決算)		② コストの推移		単位	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(計画)
補助金 39,574千円(通常分) 3,596千円(JR派遣職員分) ※JRからの職員派遣はR5年度末で期間満了	財 源 内 訳	国庫支出金	千円			1,813		
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円			9,229	3,596	6,952
		一般財源	千円	32,332	34,419	39,574	40,039	
	事業費計		千円	32,332	45,461	43,170	46,991	

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	観光案内や旅行商品の造成、観光ガイドの育成など観光客のニーズに対応できるよう事業者及び関係機関と連携をしながら誘客事業を実施している。公式ウェブサイトをリニューアルし、多言語に対応できるよう整備した。既存のつながりを活かし、台湾向けの営業活動や台湾からの視察受け入れを行った。
② 事業実施するうえでの課題	限られた人員と予算の中で、より効果的な事業が展開できるように進めていく必要がある。また、広域観光やインバウンド等の推進に対し、自治体を越えた他団体との連携強化が求められる。
③ 課題解決に向けた改革改善等	・運営業務の事務効率化、プロパー職員の専門性強化が必要。 ・他自治体の観光協会間での連携事業を実施する等、広域観光の推進に取り組む必要がある。 ・各種団体とのネットワーク構築、会員との連携による旅行商品開発など旅行業を活かした事業展開が必要。